

キリンホールディングス株式会社 キリン・サステナブルファイナンス・フレームワーク

1. はじめに

キリンホールディングス株式会社(以下、「当社」または「キリン」)は、以下の通り、「キリン・サステナブルファイナンス・フレームワーク」(グリーン・ソーシャル・サステナビリティファイナンス・フレームワーク。以下、「本フレームワーク」)を策定しました。本フレームワークは、「グリーンボンド原則 2021 年版(ICMA)」、「ソーシャルボンド原則 2021 年版(ICMA)」、「サステナビリティボンドガイドライン 2021 年版(ICMA)」、「環境省グリーンボンドガイドライン 2020 年版」、「ソーシャルボンドガイドライン(2021 年 10 月策定 金融庁)」、「グリーンローン原則 (LMA) (APLMA) (LSTA)」並びに「環境省グリーンローン及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドライン 2020 年版」との適合性に対するオピニオンを DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社(以下、DNV)より取得しております。当社は本フレームワークに基づき、グリーン・ソーシャル・サステナビリティファイナンス(以下、「キリン・サステナブルファイナンス」)を実行いたします。

1.1 会社概要

当社はキリンビール株式会社、キリンビバレッジ株式会社、メルシャン株式会社、Lion Pty Ltd、協和キリン株式会社、協和発酵バイオ株式会社等によって構成されるキリングループの持株会社です。東京に本社を置き、日本及びアジア、オセアニア地域を中心に、祖業より培った発酵・バイオテクノロジーを生かし「食領域」(酒類・飲料事業)と「医領域」(医薬事業)に加え、2つの中間領域である「ヘルスサイエンス領域」(ヘルスサイエンス事業)を展開しています。

1.2 グループ経営理念

キリングループは、自然と人を見つめるものづくりで、「食と健康」の新たなよろこびを広げ、こころ豊かな社会の実現に貢献 します

1.3 キリングループの CSV 経営

キリングループでは、社会とともに持続的に存続・発展していくうえでの重要課題を「持続的成長のための経営諸課題(グループ・マテリアリティ・マトリックス: GMM)」に整理しています。「GMM」を元に経営理念を社会存在意義に翻訳した指針として「CSV パーパス」を策定し、その達成のための中期アクションプランとして「CSV コミットメント」を設定しています。「CSV コミットメント」は、グループ/事業会社の事業計画に組み込まれており、その進捗状況を業績評価に連動させています。

持続的成長のための経営諸課題



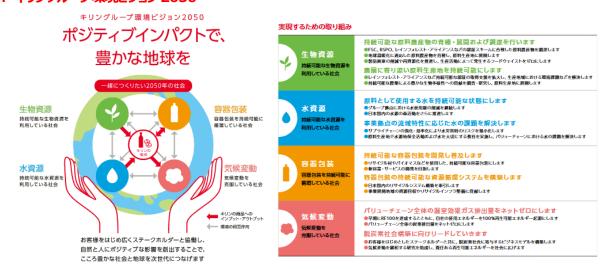
CSVパーパス



CSV コミットメント (一部抜粋)

| 重点課題 | 経営諸課題 | 成果指標 | 会社/部門 | 目標値 (2024年) |
|---------|-------------------|--|----------------------------|----------------|
| | アルコール関連問題への対 応 | 適正飲酒啓発プログラムへの参加 数、飲酒マナー・スロードリンク動画 などのホームページ啓発コンテンツ の訪問数 | キリンビール | 75万人 |
| 酒類メーカーと | | | メルシャン | 7,200人 |
| しての責任 | | | ライオン | 10万人 |
| | | | キリンホールディングス CSV戦略部 | 13.5万人 |
| 健康〉 | 免疫機能の維持支援 | プラズマ乳酸菌の機能認知率 | キリンホールディングス ヘルスサイエンス事業部 | 45% |
| コミュニティ〉 | 人権の尊重 | 人権リスクが高い農産物のサプライ チェーンに対する継続的な人権デュ ーデリジェンスの実施(開始)件数 | キリンホールディングス 調達部 | 3件 |
| 環境 〉 | 気候変動の克服 | GHG排出削減率:Scope1+2 ※ GHG (Green House Gas) | キリンビール | 30% (19年比) |
| | | | キリンピバレッジ | 17% (19年比) |
| | | | メルシャン | 25% (19年比) |
| | | | ライオン | 35% (19年比) |
| | | | ミャンマー・ブルワリー | 1.3% (19年比) |
| | | | 協和発酵バイオ | 32% (19年比) |
| | | | 協和キリン | 51% (19年比) |

1.4 キリングループ環境ビジョン 2050



当社は「CSV」を経営戦略の中心に据えるとともに、地球環境の課題解決に先駆けとなって取り組むべく、2050 年を見据えた長期戦略「キリングループ環境ビジョン 2050」を策定しております。「ポジティブインパクトで、豊かな地球を」というビジョンのもと、お客様をはじめ広くステークホルダーと協働し自然と人にポジティブな影響を創出することで、こころ豊かな社会と地球を次世代につなげます。

1.5 ヘルスサイエンス領域

ヘルスサイエンス領域はグループのコアコンピタンスを生かしながら「健康課題」の解決を通して経済的・社会的価値を創出する領域です。特に免疫、脳、腸内環境の3つの重点領域の相乗効果によってイノベーションを創出しています。



1.5.1 ヘルスサイエンス領域における重点領域と当社ならではのイノベーション創出のプロセス



*pDC:プラズマサイトイド樹状細胞(plasmacytoid dendritic cells)の略称

グローバル戦略素材

1.5.2 キリンヘルスサイエンスビジネスとソーシャルガイドラインの連環

キリングループは CSV パーパスにおける重点課題のひとつに「健康」を掲げ、「健康な人を増やし、疾病に至る人を減らし、治療に関わる人に貢献する」事に取り組んでいます。その中でも、「免疫」「脳」「腸内環境」を重点領域と設定し、キリングループのコアコンピタンスである発酵&バイオテクノロジーにより産み出される戦略素材を用いた商品およびサービスを通して、これら領域にかかる健康課題を解決していきます。

キリングループのこうした取り組みは、「SDGs アクションプラン 2021」に挙げられている「健康・長寿の達成」という社会課題の解決に資するものであり、ソーシャルボンド原則、ソーシャルボンドガイドラインにも整合しているものと考えています。

1.6 キリン・サステナブルファイナンスの実行意義

当社はキリン・サステナブルファイナンスの実行を上記の社会課題の解決への対応を図りつつ、当社の CSV を推進するための資金調達として位置づけており、「お客様」、「株主・投資家」、「従業員」、「コミュニティ」、「ビジネスパートナー」、「地球環境」のステークホルダーの皆様に対して、改めて当社の取り組みを発信する契機となるものと考えております。

2. キリン・サステナブルファイナンス・フレームワーク

2.1 調達資金の使途

キリン・サステナブルファイナンスで調達された資金は、以下の適格クライテリアを満たすプロジェクト(適格プロジェクト)に 関連する新規支出及びリファイナンスへ充当します。なお、リファイナンスの場合は、キリン・サステナブルファイナンス実行時点から5年以内に実施した設備投資に係る支出、又は3年以内に発生した費用に係る支出に限ります。

実行するファイナンスに応じて、以下のプロジェクトカテゴリへの資金充当を行います。

✓ グリーンファイナンス:グリーンプロジェクト

✓ ソーシャルファイナンス:ソーシャルプロジェクト

✓ サステナビリティファイナンス:グリーンプロジェクト及びソーシャルプロジェクト

2.1.1 適格クライテリア

【グリーンプロジェクト】

| 大項目 | プロジェクト | グリーンボンド原則 プロジェクトカテゴリ | SDGs との整合性 |
|--|---|--|--|
| 省エネルギーに関する事業 | ・ 工場におけるヒートポンプ システムの導入 | ・省エネルギー (環境目的:気候変動 の緩和) | 7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに9.産業と技術革新の基盤をつくろう 13.気候変動に具体的な対策を |
| 汚染防止と管理に関する事業及び環境配慮製品、環境に配慮した製造技術・プロセスに関する事業 | ・再生 PET 樹脂の調達・ 設備投資 | 汚染防止と管理 (環境目的:汚染防止と管理) 環境配慮製品、環境に配慮した製造技術・プロセス (環境目的:天然資源の保全) | 9.産業と技術革新の基盤を つくろう 12.つくる責任つかう責任 14.海の豊かさを守ろう |
| 再生可能エネルギーに 関する事業 | ・工場における太陽光発電 設備の導入・再生可能エネルギーの調 達 | ・再生可能エネルギー (環境目的:気候変動 の緩和) | 7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに 9.産業と技術革新の基盤をつくろう 13.気候変動に具体的な対策を |

【ソーシャルプロジェクト】

| 大項目 | プロジェクト | ソーシャルボンド原則 | SDGs との整合性 |
|---------------|---------------|--------------|---------------|
| | | プロジェクトカテゴリ | |
| 主に乳幼児の健康増進/病 | ・ヒトミルクオリゴ糖製造に | ・必要不可欠なサービスへ | 2.飢餓をゼロに |
| 気予防を通して健康・長寿 | 資する設備投資・運営・ | のアクセス(健康・健康 | 3.すべての人に健康と福祉 |
| 社会の達成に貢献する事業 | 原材料の調達 | 管理) | を |
| | | (対象となる人々:一 | 9.産業と技術革新の基盤を |
| | | 般大衆) | つくろう |
| 脳機能パフォーマンス向上と | ・シチコリン製造に資する設 | ・必要不可欠なサービスへ | 2.飢餓をゼロに |
| 衰え予防を通して健康・長 | 備投資・運営・原材料の | のアクセス(健康・健康 | 3.すべての人に健康と福祉 |
| 寿社会の達成に貢献する事 | 調達 | 管理) | を |
| 業 | | (対象となる人々:一 | 9.産業と技術革新の基盤を |
| | | 般大衆、高齢者、患 | つくろう |
| | | 者) | |
| 免疫機能の維持を通して健 | ・プラズマ乳酸菌の研究開 | ・必要不可欠なサービスへ | 3.すべての人に健康と福祉 |
| 康・長寿社会の達成に貢献 | 発及びプラズマ乳酸菌原 | のアクセス(健康・健康 | を |
| する事業 | 料粉末の製造に資する設 | 管理) | 9.産業と技術革新の基盤を |
| | 備投資・運営・原材料の | (対象となる人々:一 | つくろう |
| | 調達 | 般大衆、高齢者、脆弱な | |
| | | 若者) | |

2.1.2 除外クライテリア

キリン・サステナブルファイナンスで調達された資金は下記に関連するプロジェクトには充当しません。

- ・プラスチック製造についてはリサイクルペットを対象としていないもの
- ・所在国の法令を遵守していない不公正な取引、贈収賄、腐敗、恐喝、横領等の不適切な関係
- ・人権、環境等社会問題を引き起こす原因となり得る取引

2.2 プロジェクトの評価と選定のプロセス

2.2.1 評価・選定プロセス

当社の経理部及び CSV 戦略部が 2.1 にて定めた適格プロジェクトを選定し、選定された適格プロジェクトの最終決定は財務戦略担当執行役員が行います。事業の適格性については、CSV パーパス達成への貢献性を総合的に評価しています。

2.2.2 環境リスク、社会リスクを低減するためのプロセス

事業の実施にあたって、当社はプロジェクトの実行及び事業期間の全てにおいて環境関連法令及び当該地域との協定 を順守するほか、社会倫理に適合した誠実な行動を取るために、キリングループコンプライアンスガイドラインに従います。また、 適格プロジェクトに関する ESG 関連の論争が生じていた場合、適切に対処し、開示する予定です。

2.3 調達資金の管理

当社ではキリン・サステナブルファイナンス実行による手取り金について、全額が償還/返済されるまで、半期毎に当社の経理部が内部管理システムを用いて調達資金の充当状況を管理します。調達資金は資金調達から 1 年以内に適格プロジェクトに充当予定であり、キリン・サステナブルファイナンスの調達資金の全額が充当されるまでの間は、現金又は現金同等物等にて管理されます。

2.4 資金調達者によるレポーティング

2.4.1 資金充当状況レポーティング

当社は、適格クライテリアに適合するプロジェクトに調達資金が全額充当されるまで、プロジェクトについて機密性を考慮しつつ、調達資金の状況(プロジェクト名称、進捗状況を含むプロジェクトの概要、充当額及び未充当額)を年次でウェブサイト上に公表します。

また、長期にわたり維持が必要である資産について、複数回のキリン・サステナブルファイナンス実行を通じてリファイナンスを行う場合には、キリン・サステナブルファイナンス実行時点における当該資産の経過年数、残存耐用年数及びリファイナンス額を開示します。

なお、調達資金の全額充当後、大きな変更が生じる等の重要な事象が生じた場合は、適時に開示します。

2.4.2 インパクト・レポーティング

当社は、キリン・サステナブルファイナンス実行から償還/返済までの間、以下の指標を実務上可能な範囲で年次で当社ウェブサイト上にてレポーティングします。

【グリーンプロジェクト】

| 大項目 | プロジェクト | レポーティング事項 |
|-----------------------------------|--------------------|------------------------------|
| 省エネルギーに関する事業 | ・工場におけるヒートポンプシステム導 | ・GHG 削減量(t-CO ₂) |
| | 入 | |
| 汚染防止と管理に関する事業及び環 境配慮製品、環境に配慮した製造技 | ・再生 PET 樹脂の調達・設備投資 | ・リサイクル樹脂の使用比率(%) |
| 術・プロセスに関する事業 | | |
| 再生可能エネルギーに関する事業 | ・工場における太陽光発電設備の導 | ・GHG 削減量(t-CO ₂) |
| | 入 | |
| | ・再生可能エネルギーの調達 | |

【ソーシャルプロジェクト】

| 大項目 | プロジェクト | アウトプット | アウトカム(※) |
|---------------|---------------|---------------|---------------|
| | | | (対象となる人々に |
| | | | もたらされる便益や変化 |
| | | | (成果)) |
| 主に乳幼児の健康増進/病 | ・ヒトミルクオリゴ糖製造に | ・ヒトミルクオリゴ糖製造能 | ・幅広い地域・年齢層のお |
| 気予防を通して健康・長寿 | 資する設備投資・運営・ | 力の増加 | 客様の健康増進に貢献す |
| 社会の達成に貢献する事業 | 原材料の調達 | | るとトミルクオリゴ糖配合製 |
| | | | 品(粉ミルク・健康食品な |
| | | | ど) の国内外の使用者数 |
| | | | の増加 |
| 脳機能パフォーマンス向上と | ・シチコリン製造に資する設 | ・シチコリン製造能力の増 | ・お客様の脳機能のパフォ |
| 衰え予防を通して健康・長 | 備投資・運営・原材料の | 加 | -マンス向上と衰え予防に |
| 寿社会の達成に貢献する事 | 調達 | | 貢献するシチコリン配合製 |
| 業 | | | 品 (医薬品・健康食品な |
| | | | ど) の国内外の使用者数 |
| | | | の増加 |
| 免疫機能の維持を通して健 | ・プラズマ乳酸菌の研究開 | ・プラズマ乳酸菌の製造能 | ・お客様の免疫機能維持 |
| 康・長寿社会の達成に貢献 | 発及びプラズマ乳酸菌原 | 力の増加 | に貢献するプラズマ乳酸 |
| する事業 | 料粉末の製造に資する設 | ・論文発表 | 菌の国内外の継続摂取 |
| | 備投資・運営・原材料の | ・学会での発表 | 人数の増加 |
| | 調達 | ・アカデミアとの提携 | |
| | | | |

[※]それぞれのプロジェクトにおける使用者数を年次でレポーティングすることを想定しています。

2.5 外部レビュー

2.5.1 セカンド・パーティー・オピニオン

当社は、キリン・サステナブルファイナンス実行前に、DNV より本フレームワークについて、「グリーンボンド原則 2021 年版 (ICMA) 」、「ソーシャルボンド原則 2021 年版 (ICMA) 」、「サステナビリティボンドガイドライン 2021 年版 (ICMA) 」、「環境省グリーンボンドガイドライン 2020 年版」、「ソーシャルボンドガイドライン (2021 年 10 月策定 金融庁) 」、「グリーンローン原則 (LMA) (APLMA) (LSTA)」並びに「環境省グリーンローン及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドライン 2020 年版」への適合性を確認するための外部評価を取得しました。

2.5.2 アニュアル・レビュー

当社はキリン・サステナブルファイナンス実行日から 1 年を経過する前に、適格プロジェクトのレポーティングが本フレームワークに適合しているかを評価するためのレビューを、独立した外部機関である DNV から取得致します。このレビューは、当該キリン・サステナブルファイナンス実行から全額充当まで毎年行う予定です。